

会期:2018年5月31日(木)~6月3日(日)

会場:リーガロイヤルホテル広島、広島県立総合体育館、NTTクレドホール

会頭:広島大学大学院医歯薬保健学研究所統合健康科学部門皮膚科学 秀道広先生



第117回日本皮膚科学会総会 ランチオンセミナー32

時空で理解する爪疾患

日 2018年6月3日(日)
時 12:00~13:00

会場 第9会場
リーガロイヤルホテル広島
32階ダイヤモンドルーム
〒730-0011 広島県広島市中区基町6-78

学会4日目



座長

金沢医科大学 皮膚科学 教授 望月 隆 先生

講演 1

外用爪白癬治療剤を効果的に使うための工夫

慶應義塾大学医学部皮膚科学教室 専任講師 齋藤 昌孝 先生

講演 2

爪白癬の診療経験 ~クレナフィン®の使用経験も含めて~

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 皮膚病態学分野 准教授 竹中 基 先生

*当セミナーは整理券制です。整理券の枚数には限りがございますので、あらかじめご了承ください。
整理券配布場所:6月3日(日)7:45~11:30 リーガロイヤルホテル広島 3F ホワイエ
アプリでも整理券の発券ができます:6月3日(日)8:45~11:30

共催:第117回日本皮膚科学会総会/科研製薬株式会社

第117回日本皮膚科学会総会 ランチョンセミナー32



時空で理解する爪疾患

講演1

外用爪白癬治療剤を効果的に使うための工夫

慶應義塾大学医学部皮膚科学教室 専任講師 齋藤 昌孝 先生

近年、爪甲での薬剤の透過性を高めた外用爪白癬治療剤が相次いで開発され、その優れた臨床効果から広く使用されつつある。しかし、単純に外用するだけであらゆる病型の爪白癬に万能というわけではなく、経口抗真菌剤に匹敵しない病型もある。爪への透過性を高めた製剤であるとは言え、外用治療である以上、臨床症状から類推される白癬菌の爪甲内寄生部位を考慮に入れた治療戦略が必要になると考えられる。そこで、外用抗真菌剤の効果を最大限に発揮させるためにはどうすればよいかについて考えてみたい。結論としては、必要に応じて爪甲処置（爪を切る、削る等）を積極的に併用することを強く勧めたい。爪甲処置によって、外用抗真菌剤の爪組織内での到達範囲が広がれば、外用治療の成功率は劇的に高まるものと推測される。今回、爪白癬の外用抗真菌剤を効果的に使うための工夫として、有用かつ安全な爪甲処置の方法と注意点について述べる。

講演2

爪白癬の診療経験～クレナフィン®の使用経験も含めて～

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 皮膚病態学分野 准教授 竹中 基 先生

爪真菌症の原因菌を長崎大学での同定結果から検討したところ、成書に記載されているように、*Tricophyton* (以後 *T.*) *rubrum* が最も多く、次いで、*T. mentagrophytes*、*Candida sp.* であり、その他の糸状菌はほとんど検出されなかった。しかし、爪白癬として培養同定した症例のうち、*T. rubrum* は11.0%～15.5%、*T. mentagrophytes* は4.7%～5.8%を占めるに過ぎず、雑菌や菌陰性のため原因菌が同定できなかった症例が71.7%～82.3%であり、爪真菌症での原因菌の同定の困難さが再認識された。長崎大学病院皮膚科・アレルギー科では、爪白癬のみで受診する患者はほとんど皆無であるが、糖尿病や膠原病など他疾患に合併する爪白癬を診察することが多い。現在、そのような症例において、エフィナコナゾール外用液の有効性について、経時的に検討しており、その結果について報告すると共に、爪白癬の鑑別疾患についても、供覧したい。